

令和6年度 外海黒崎小学校 学校教育方針と学校教育目標

1 学校教育方針

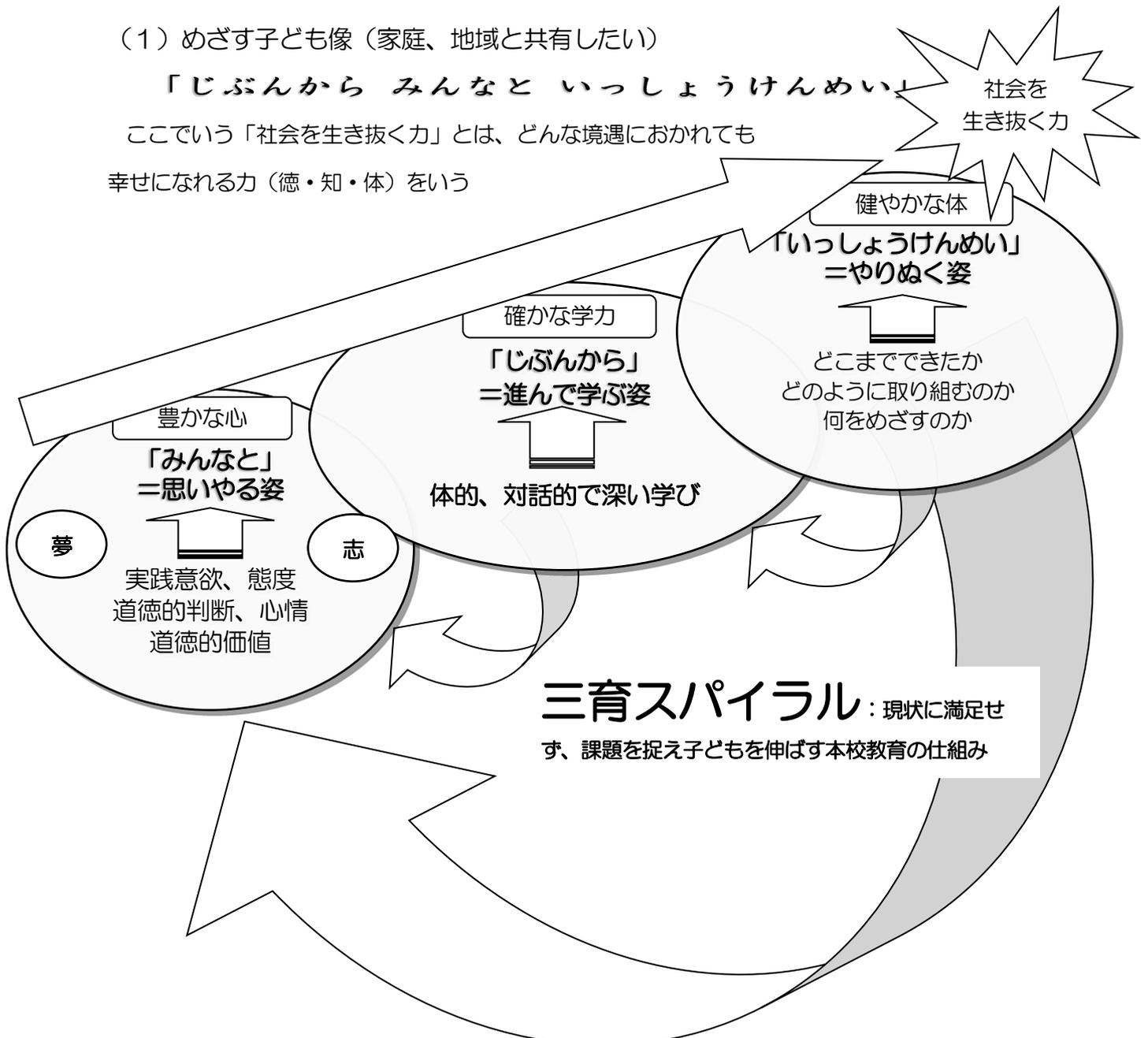
本校職員は、日本国憲法、教育基本法、関係諸法、長崎県及び長崎市の教育方針に基づき、教育者としての職責を自覚し、愛情と信頼を基盤とした学校・家庭・地域の協働による教育を推進し、学力の保障と社会性の発達を図る。

2 学校教育目標 **校訓「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」の具現化** をとおして、社会を生き抜く力を身につけた子どもを育成する。

(1) めざす子ども像（家庭、地域と共有したい）

「じぶんから みんなと いっしょうけんめい」

ここでいう「社会を生き抜く力」とは、どんな境遇におかれても
幸せになれる力（徳・知・体）をいう



(2) めざす学校像

- 子どもが伸びる学校（児童、保護者にその実感をもたせること）
（夢・憧れ・志を抱き、その実現に向けて取り組む教育活動の実践）
- 働き甲斐のある学校（職員に実感がもてること）
（教職員…専門性の発揮、児童に愛情・教育に情熱、学び続ける姿勢）
- 地域とともにある学校（より多くの住民に実感をもたせること）
（育友会、評議員、サポーター、育成協 学校・家庭・地域の協働）

(3) めざす教職員像

- 児童に寄り添い導く教職員 キーワード **「鍛えほめる」**再掲

生徒指導4機能を踏まえた教育活動…①自己決定の機会を与える

②自己存在感を育む ③共感的人間関係を育む ④安全安心な風土の醸成

★やっつけていい⇒全体・個別で褒める、やり直し、全体の場で問題提起

★やっつけてはいけない⇒全体の場で個人を叱責、連帯責任、身体的圧迫＝暴力

- 腕を磨く教職員（経営力、授業力、研修、対応力、処理能力）

RVPDCA サイクルによる経営と指導、人事評価、研修を

Research 実態調査 → Vision 目標設定 → Plan 計画立案

→ Do 実践 → Check 評価 → Action 修正実践

- 児童、保護者、地域の信頼に応える教職員

誠意ある対応：迅速、正確、丁寧（来校者：保護者・住民・業者、電話）

服務規律の徹底：「時間」「ルール」「子どもの命」「人の立場」を守る

情報管理（公私のすみ分け、環境整備、情報整理）

3 経営の重点

(1) 豊かな心を暮らしに活かす子どもの育成

①「特別の教科 道徳」の授業づくりと、児童のよさを伸ばす評価活動

- いじめを許さない道徳的価値づけ、互いを認め合う人間関係の構築に活かす
- 道徳的価値を自分の事として捉え、多面的・多角的に深く考え議論する授業
「自分自身」「人との関わり」「集団や社会との関わり」
「生命や自然・崇高なものとの関わり」 に関すること
- 「教師が何を教えるか」から「児童がどう学ぶか」への転換

②組織で動く（情報共有…報告・連絡・相談）

- 各部（「生活・相談」「特別活動」「学習」「保健・安全・体育」等）
- 各種委員会（いじめ・不登校対策、就学指導 入学、卒業等）

③施設、設備の整備・充実[G1-4]

- 環境美化：各自「持ち場」の環境整備(危機管理 教育公務員の真骨頂)
- 安全点検：老朽、破損、腐食ほか危険個所への担当を主にした全職員の確認体制
- 教育掲示（言語環境）：教育目標の具現化を意識 自由度の高い発想・企画

④体験活動の充実

- 生命の有限性や自然の大切さ、自他の生き方や考え方について触れる活動
「生活科」「理科」「総合的な学習の時間」「特別活動」「学校行事」等

⑤人権・平和教育の推進を図る。

- ・自他に対する人権意識、人権感覚について考えさせよりよい実践へとつなげる
「異性」「異年齢」「障害のある人」「高齢者」「妊婦」「友だち」など
- (2) 確かな学力を身につけ発揮できる子どもの育成[G1-1]

① 子どもの未来を見据えた確実な「地ならし」を具体的に続けて行う

- ・ 漢字の読み書き、四則計算、公式、社会及び理科等における内容の理解・暗記
- ・ 書くスキル(握り、姿勢、速記)、タイピングスキル
- ・ 読書時間の確保
- ・ コミュニケーションスキル：話す、話し合う、話を聞く
- ・ 見る、聞く、想像するスキル＝認知機能を高める組織的・継続的な取組

② 学力の保障に努める。

- ・ 教員の問い、文章の問いから趣旨を捉える(聞き取り、読み取り)能力の育成
- ・ 学習規律の徹底
- ・ 社会で生き抜いていく力を育むための主体的、対話的で深い学びの授業づくり
- ・ 読書の習慣化を図るための家庭との協働の推進
- ・ 校内研修の充実を図り、学校全体として指導力の向上を図るとともに、学校教育のプロ集団として児童が伸びる指導に努める。
- ・ 外国語及び外国語活動、ICT 機器等、社会のニーズに応じた教育の推進

③ 児童の困り感の解消、よさの伸びに向けた特別支援教育の推進を図る。

- ・ 保護者と共通理解を深め、個に応じた指導・支援過程の工夫をする。

(3) 心身ともに健やかな子どもの育成[G1-2]

① 食育の推進を図り、学校給食の整備・充実に努める。

- ・ 食の安全や栄養指導、給食指導など、食育の確立を図る。残食0の習慣化

② 児童の体力作りを推進する。

- ・ 児童の実態をふまえ、体力向上のための活動を促進する。＝体育、外遊び
- ・ 自ら健康づくりに向かう児童を育てる。

③ 保健・安全指導の重点指導

- ・ フッ化物洗口
- ・ 生命の尊厳について理解し、態度・行動で示す児童を育てる。
- ・ 安全に留意し、ルール(学校生活や集団登校)を守る児童を育てる。

(4) 家庭、地域との信頼の構築[G1-3]

★① 学校・家庭・地域の連携・協働を推進する。＝R6コミュニティ・スクール発足

- ・ 現評議員を中心としたコミュニティ・スクール発足に向けた協議 ＝ 管理職員・担当

★② 家庭、地域との協働体制の機能化

- ★ 実働団体の連携強化 ＝ 協働意識の強化、学校運営協議会の組織化と実働化
- ★ 自治会、地域団体(出津コミュニティ等)等との連携
- ★ 子供を守るネットワーク、学校サポーター、住民有志との連携
- ★ 放課後児童クラブほか関係事業所との連携
- ★ こども園、保育園等との連携
- ★ 外海(池島)中学校ほか近隣校との連携
- ★ 行政との連携(駐在所、北部事務所、公民館)

★③ 家庭と連携して基本的な生活習慣や学習習慣の確立に努める。

- ★家庭学習の充実を図る。→ 家庭学習の手引きの実効検証、改善
- ★宿題をさせる意図、適切な内容・量についての共通理解、保護者への啓発。
- ★育友会(保護者)における研修の在り方
- ★④保護者や地域住民との相互理解と相互信頼の確立に努める。
 - ★地域とともにある学校づくりのためのコミュニティ・スクールのR6年度発足と実働。その仕組みの中核となる学校運営協議会の年度開催3回を目指す。
 - ★地域の文化や人材を活かした特色ある教育過程を編成し、具体的に実践する。
 - ・学校評価項目を意識し、職員個々が学校運営に参画(具体的な評価事項の設定、評価)する。※学校評価：各部で目標設定→評価→改善
 - ・子どもの異変や子育てに悩む保護者にとって、学校が気軽に相談できる窓口であり、必要に応じて関係機関との連携を図るなど、機会を捉えて啓発に努める。
 - ・教育公務員としての自立的、組織的な自覚と行動に心がける

不祥事の根絶 重点目標：体罰0、交通事故0、ハラスメント0

4 本校の課題

- (1) 確かな学力の定着
 - ① 学ぶ意義の理解 = 子ども一人ひとりに将来進む道を選択する力を持たせる
 - ② 思考力・判断力・表現力(主体的・対話的で深い学び) = 書く・話す・話し合う
 - ③ 基礎基本(読解力・語彙力・計算力・物を捉える力等)の徹底
 - ④ 校内の教育環境の充実：教育掲示で言葉や学びをちりばめる⇒学ぶ気にさせる
 - ⑤ 学んだことの「習得」「活用」「探求」
 - ⑥ タブレットの活用の仕方、AI教材「キュビナ」の積極利用
- (2) 特別支援・不登校対策
 - ① 困り感のある児童の見取り、保護者との連携
- (3) コミュニケーション能力の育成
 - ① あ・は・は運動の徹底した取組 = 児童・保護者の認知100%を目指す
 - ② 返事(問われたら答える 求められたら応える)
- (4) 放課後の生活指導
 - ① 交通安全「おじぎひとつで こうつうあんぜん」、校外「あはは運動」の促進
- (5) 無言で行う集団廊下移動、トイレ利用、給食、掃除の徹底
- (6) 特定家庭への対応
 - ① 担任は対応の主 担任一人に任せない共有体制
- (7) 働き方改革
 - ① 超勤の抑制：出勤可能時間(=登校受入時間) = 7:45~

1日1.5H(年360H)の遵守	通常日の退庁時刻	= ~17:30
	水曜日、休日前日の定時退庁	= ~17:00

 - ② 教育活動、事務処理に係る業務の質・量の点検、見直し
 - 協議(会議、研修)の時間は30分(夏季休業を活かした企画・会議)
 - 新日課の実施：執務の時間確保 起案の単票添付を廃止
 - 管理職員、担任、養護教諭によるTetoru・安心メール・HPのフル活用
- (8) より適正(公平、公正)な人事評価の実施
 - ① テスト回答率 ② CRT 全学年実施 ③ 週案提出 ④ 研究授業の実施
 - ⑤ 生活・総合の教育課程の実施・更新 ⑥ 交流人口 ⑦ 学校評価項目

5 課題解決への具体策

(1) 確かな学力への取組

- ① 全教員による横断的な指導体制の強化
- ② 複式指導体制における自律的な学びの習慣化
- ③ 通知表3期制から2期制へ⇒成績処理の時間を執務の時間に
- ④ タブレットの活用
 - ・AI教材（キュビナ）による問題解決スキルの向上 書く活動とのバランス
- ⑤ 校内研修の充実
 - ・ふるさと教育を通じた「自分の町を語り誇りにできる子どもの育成」の検証
 - ・前年度学力調査結果を踏まえた課題事項の改善策
- ⑥ 新教育課程（生活・総合と他教科連動）の実践及び検証
 - ・「自分の町を語り誇りにできる子どもの育成」を目的とした生活科、総合的な学習の時間の教育課程の実施⇒必要に応じた更新
 - ・他教科連動⇒実効性の評価
 - ・教育課程におけるGIGAの活用：「主体的・対話的で深い学び」実現のため

(2) 特別支援・教育相談の充実・・・報告、連絡、相談

- ① 確実な引き継ぎ、児童理解研修会の有効活用
- ② 各種機関との連携

(3) 重点努力目標[下記事項から業績評価に目標及び具体策を任意設定のこと]

- ① 学力調査の前回実績(学年平均)を上回る(各学年で目標値を設定すること)
- ② ふるさと教育(生活・総合)の教育課程を実施・連動・更新し検証する
- ③ 学校評価心「ルールやマナーの実践」児童90%(R5:72%、親・職員100%)
- ④ 学力「家庭学習の習慣」児童評価95%(R5:91%)
- ⑤ 体力「体力向上」児童評価95%(R5:88%)

(4) 共通実践7項目

- ① 業者テストで個々の学習成果を確実に収めることができる工夫と努力を
※保護者にとって我が子の学力を知る機会には業者テストの成果しかない
- ② 体力向上のための具体と継続を
- ③ 授業で書く・話す・話し合う機会、教室・廊下・階段に学ぶ刺激の提供を
- ④ 家庭と連携して鉛筆の正しい持ち方の習得を
- ⑤ 人事評価の目標達成の意識と具体を
- ⑥ 超勤最長1.5H/日を意識した勤務を
- ⑦ 15日/年の計画的な年休取得を(1月～12月もしくは9月～8月)

6 終わりに

★今年度の合言葉
児童・・・「毎日おみやげ」
R5「つみかさね」

職員・・・「和して一」
R5「当事者意識」

「教育とは わたしを語り 未来を託すこと」 溝川